

次世代育成 WG の審議、ならびに報告書、提案を経て立ち上げられた次世代育成型研究プロジェクトの評価部会は、主として道徳科の評価に焦点を当て、評価の在り方の可能性を探っていくことを目的として設置された。道徳科における評価の基本的な考え方としては、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の報告書（平成 28 年 7 月）、また、現行の学習指導要領解説の中で、次のような内容で規定されている。道徳科の評価は、児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料であること。また、数値による評価ではなく、記述式とし、大きくくりなまとまりを踏まえた評価であること。その評価の視点は、学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。

しかし、教師のねらいのもと構想される道徳科の授業において、児童生徒の成長を見取る 2 つの評価の視点（自我関与と多面的・多角的な見方）は、道徳科の評価として妥当なのか、また、道徳教育、道徳科としての評価の在り方はどのようにあればいいのか（両者の関係性）、児童生徒による個人内評価を教師がどのように見取るのか、評価における ICT 活用等さまざまな課題が出されている。そこで、本評価部会では、道徳科の評価の在り方の課題、その課題解決のための評価の可能性を探っていくことにした。

2023 年 12 月 26 日に立ち上げの会（キックオフ・ミーティング）第 1 回を開催し、道徳科の評価に焦点を当て、参加者が道徳科の評価について、どのような考えをもっているのか交流し、今後の会の持ち方について確認した。評価部会は基本的に奇数月の第 4 金曜日 20 時～2 時間程度の開催とした。2024 年 1 月の第 2 回は、道徳科における評価についての各参加者の問題意識と各自がおこないたい研究テーマ、内容の概要を交流した。第 3 回（3 月）～第 5 回（7 月）までは、3 名ずつ研究の構想の発表と審議をおこなった。第 6 回（7 月）は、11 月開催される静岡大会のラウンドテーブル参加に向けての座談会後、役割分担をおこなった。第 7 回（9 月）は、ラウンドテーブルの要旨の審議をおこなった。第 8 回（11 月上旬）ラウンドテーブルの話題提供者 4 名の発表審議をおこない、11 月 23 日の静岡大会のラウンドテーブルの発表に臨んだ。第 9 回（12 月）では、ラウンドテーブルの成果と課題からみた、各自の研究の振り返りと方向性について座談会形式で開催した。第 10 回（1 月）では、研究のまとめに向かう各自の進捗状況の報告、第 11 回（3 月）は、各自の研究の成果と課題についての報告、第 12 回（5 月）は最終回として、道徳科の評価部会におけるチームとしてのまとめと各自の研究のまとめの報告をおこなった。その研究会の発表資料を添付しているが、今後の研究におけるオリジナリティ守秘の観点から、すべてを公開しているわけではないことは予め断っておきたい。

参加者より取り上げられた評価の在り方を概観すると、下記の通りである。

<評価の在り方の提案>

- ・道徳教育と道徳科の評価の在り方（カリキュラム・マネジメント）

- ・ 児童の成長と道徳科授業の評価の在り方
- ・ 道徳科における指導と評価の一体化
- ・ 児童生徒の学習のまとめに対する教師のかかわり（フィードバック）
- ・ 道徳科の評価における ICT の効果的な活用
- ・ 道徳科の振り返りのデータベース化による評価システムの開発

個人研究課題を設定し、部会で研究の構想、内容、方法、成果と課題を審議することで研究の方向性が明らかになり、PDCA サイクルで見通しをもって研究を推進することができた。ラウンドテーブルで一定の成果を発表することで、個人研究の内容の拡充はもとより、各テーマのチームとしての成果も得ることができ、会員相互の交流も得ることができたのではないかな。

【資料目次】

①浅部航太「自己の生き方を考え続ける」意欲を高める道徳科の評価―「関係に基づく評価」を参考に	3
②猪岡養子「大好き発見私の町 道徳を要としたカリキュラムデザインの提案」	6
③杉本遼「道徳授業をどう見取る？」	8
④鈴木賢一「道徳科の評価における ICT の効果的な活用」	1 2
⑤谷口雄一「児童生徒の学習のまとめに対する教員からのフィードバックの在り方について―道徳科における個別最適な学びと協働的な学びを手がかりに―」	1 5
⑥中野啓明「振り返りの記録のデータベース化による評価システム開発の構想」	1 7
⑦安井政樹「道徳科における評価の一体化」	2 0

日本道徳教育学会 次世代育成 評価部会 報告書

「自己の生き方を考え続ける」
意欲を高める道徳科の評価
—「関係に基づく評価」を参考に—

2025年5月 東京学芸大学 浅部 航太

1

本研究の要旨

道徳科の評価を
「生き方を考え続ける意欲を高めるもの」
と捉えた上で、
「関係に基づく評価」（ガーゲン&ギル,2023）
を手掛かりに、
評価の充実の方向性について提案する。

2

道徳科は何を目指す教育か

道徳的価値に向き
合い、いかに生き
るべきかを自ら考
え続ける姿勢こそ
道徳教育が求める
もの

道徳科の学習は、「人生いかに生きるべき
か」という生き方の問いを考えると言い換
えることができ、道徳科の指導においては、
児童のよりよく生きようとする願いに応え
るために、児童と教師が共に考え、共に探
求していくことが前提となる。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解
説 特別の教科 道徳編」p.16・91・92「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」p.106

生き方（こんな人間になりたい!）を考え続ける子どもを育てる

3

道徳科の評価の目的

学習評価の目的

学習における評価とは、児童生徒にとっては、自らの
成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」p.107

道徳科評価の目的

「生き方を考え続ける意欲」を高めるための評価

4

現行の道徳科評価の課題

「生き方を考え続ける意欲」を高めるものになっているか？

①指導要録（通知表）のための評価という意識が根強い
⇒1度のフィードバックでは意欲は高まらない

②教師が評価するという評価観
・ 生き方を考える。 ⇒（長期的な）自己評価が中心となるはず
・ フィードバックの主体 ⇒+友達、保護者、管理職、地域…

③評価の2視点（多面的・多角的、自分自身との関わり）
⇒「生き方を考え続ける」という目的が等閑視されやすい

5

ガーゲン、ギルの問題意識

・ 工場としての教育の見方を転換させ、対話と協同を軸とする関係
のプロセスとして理解することを提案

・ 関係性の視点から、教育評価の構想を引き出す

・ 必要なのは、学びに対する評価ではなく、学びのプロセスの中で
行われ、それに寄与するような評価へのアプローチ

「関係に基づく評価」

ケネス・J・ガーゲン、シェルト・R・ギル（2023）『何のためのテスト？—評価で変わる学校と学び—』ナカニシヤ出版、p.56

6

「関係に基づく評価」 (relational evaluation)

関係を核とし、**学び**と学びが埋め込まれて
いる**関係を豊かにする**ような評価の考え方

評価≠
判断の手段

ケネス・J・ガーゲン (2023) 『何のためのテスト?—評価で変わる学校と学び—』ナカニシヤ出版, p.86

3つのゴール

1. 学びのプロセスの向上 …学習者を動機付ける

2. 学びの意欲の持続 …責任や自信をもたせる (自己評価を重視)

3. 関係の質を豊かにする …信頼構築に焦点

ケネス・J・ガーゲン, シェルト・R・ギル (2023) 『何のためのテスト?—評価で変わる学校と学び—』ナカニシヤ出版, pp.60-64を整理

7

「関係に基づく評価」の実践の場

1. 学びのプロセスにおける評価 (プロセス評価)

・生徒が進んで参加できるように**招待**するか

・「教師と生徒」という**1つの単位として理解**する
例) 教師がクラスの活動の流れを止めて、「私たち (クラス)」
が今どんな状態かについてコメントを求める

・**即興的な性質**に目を向ける (標準的な方法はない)

2. 一定期間ごとに行われる評価 (リフレクティブ評価)

・起こったことを振り返り、どこを改善すればよいか

・多声的な対話の重要性 (生徒と教師の会話, 保護者, クラスの仲間)

ケネス・J・ガーゲン, シェルト・R・ギル (2023) 『何のためのテスト?—評価で変わる学校と学び—』ナカニシヤ出版, pp.65-69

8

「関係に基づく評価」の評価形態

プロセス評価
(授業中に行う評価)

・仲間や教師からの肯定的な**フ
ィードバック**、**省察的な質問**

・**自己評価**など

【特徴】

・**即興**で行う

・教師が子供の**関心に耳を傾ける**
(教師もフィードバックを受ける)

リフレクティブ評価
(授業後の定期的な省察)

・**ポートフォリオ**

・個人やグループでのレビュー

・**年度末**の児童主導の**報告会**など

【目的】

・将来の目標などについて**互いに探究**

・他者が自らの経験を語るのを聞き、**省察的な表現力**を高める

ケネス・J・ガーゲン, シェルト・R・ギル (2023) 『何のためのテスト?—評価で変わる学校と学び—』ナカニシヤ出版, pp.66-75を整理

9

【方向性①】授業中の評価 (プロセス評価)

● 教師が**子どもの関心に耳を傾けて**問いを設定する。
☞初発の感想や前時までに生まれた問いを参考に設定。同意を得る。
 今日はこのテーマで考えようと思うけど、どう思う？

● 教師のフィードバックは、**問い返し**を重視する。
 詳しく教えて？ どれが納得できる？ みんなはどう？

● 終末の振り返り (自己評価) を**自由**に行う。
 考えたことや生き方のヒントを記録しておこう。

10

【方向性②】長期的・重層的な自己評価 (リフレクティブ評価)

学期始
(道徳開き・キャリアスタート)

道徳科 他教科
体験

振り返りを
整理
(2ヶ月に1回程度)

学期末
(報告会)

・自分の生き方は…

・そのために自分は…

◎振り返り (生き方のヒント) を蓄積

◎1〜2名の**振り返り**を全員でフ
ィードバック (短学活、次時の導入)

特に

・こんな学びや成長が…

・自分が明らかにした
生き方は…

◀ 生き方が磨かれていく

11

何を肯定的にフィードバックするか？

「**生き方を考え続ける**」意欲を伸ばしたい

◎生き方を考える上で必要な思考・方法知

▲方法的にも道義的
にも難しい

自己を見つめる
(自分のこととして、
自分との関わりで考える)

多面的・多角的
に考える

道徳的諸
価値の理解
を基に

自己の生き方につ
いての考え (思考)
を深める

学習を
通して

道徳性
||
道徳的な判断力
心情
実践意欲と態度

?理解単体を評価するこ
とへの議論が不十分

◎生き方を考えようとしている姿勢はOK

▲毎時間の変容を求めフィードバックすると決意表明に

12

13

具体的にどうフィードバックするか？

質問

①生き方を考え続けようとする姿勢

- 分らなかったことを考え続けていてすごいね
- すぐ答えを出さずに考え続けるって大切だね
- 前に考えた生き方を、もう一度考え直していいね

②多面的・多角的な見方に発展する

- 友情の新しい考え方に気付いたね【多面的】
- 自由が成り立つ理由を考えられたね【本質軸】
- 「もし〜だったら」と考えたね【条件軸】
- この先どうなるかまで考えたね【時間軸】
- いろいろな人の立場から考えたね【対象軸】
- 友達のことを参考にできたね【他者理解】

③自分自身との関わりで深める

- 自分はどうなのか見つめられたね
- 登場人物になりきって考えたね
- これまでの体験と関わらせて考えたね
- 自分のよさや課題に気付いたね
- 難しさや自分の弱さを考えたね
- 自分ができていることに気付いたね

【参考】富岡栄（2020）「道徳科における指導と評価の一体化を目指して」p.105
深堀新水（2019）「重視する学習状況から生徒のよさを発する道徳科の授業」pp.54-55

13

14

妥当性、信頼性を超えた評価も（ある小学校4年生の事例から）

- あまり学習に意欲的でなく、振り返りもほとんど書かない子
- ある道徳科授業で振り返りを書いた。別に何てことはない内容だが、この子がこれだけの振り返りを書くのはすごいこと
- 拍手が起き、授業を観ていた校長先生も「すごいね！」と伝えた。
- その後、この子は道徳が好きになり授業を心待ちするようになった。

関係によって評価が変わる（個人内評価）

妥当性、信頼性を求めすぎない

14

15

【まとめ】道徳科評価の改善の方向性

①道徳科の評価は生き方を考え続ける意欲を高めるもの

- この視点も評価の視点に含める。

②評価観を変える

- 学びと関係を豊かにするため、教師だけでなく子ども（+α）と行う。
- プロセスでのフィードバックを一層重視する（授業改善の評価も）。
- 妥当性・信頼性を求めすぎない。 積極的な個人内評価を！

③長期的で重層的な自己評価（定期的な省察）を行う

- 生き方は長期的に更新されるもの。！時間での評価の限界を認識

15

16

本研究の成果

- ガーゲンの「関係に基づく評価」を手掛かりに、道徳科の評価を再考したことにより、現行の評価のよさと改善点が明確になった。
- 具体的には、改善点として、①「生き方を考え続ける意欲を高める」視点を加えること、②評価観を転換すること、③長期的で重層的な自己評価を重視することを提案できた。

本研究の課題

- 道徳教育・道徳科で育成を目指す「道徳性」についての検討や、道徳科は何を目指す教育なのかといった、本質的な議論に踏み込むことができなかった。
- 資質・能力と評価の視点とのねじれ（目標に準拠しない評価）をどう調整するかや、「道徳的価値の理解」（道徳科で扱う「知識」）を評価することについて言及できなかった。

16

日本道徳教育学会
次世代育成型研究プロジェクト
評価部会 報告書

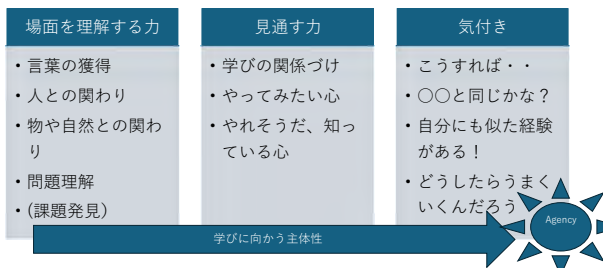
大好き 発見 私の町 道徳を要とした カリキュラムデザインの提案

横手市立大森小学校

猪岡 義子

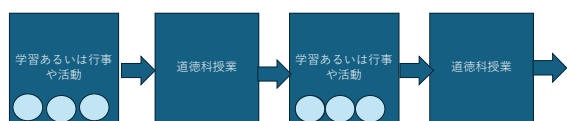
1

体験を意識することでどんな力が発揮されるか？



2

道徳性を育むことを意図したカリキュラムマネジメント(例)



問い

道徳授業を他教科や行事と関連付けることで、体験は意識され、それによって道徳性が深まるのではないか。

3

6月授業実践 小学校二年生 児童22名

テーマ 郷土愛

「わたしたちのすむ町」
教材名「見つけたよ」

ねらい

自分の住む町の自然や文化、人々との触れ合いを通して地域のよさを考え、地域や国に親しみをもち、生活する態度を養う。

○小学校2年生にとって、ねらいにある姿とはどのような姿なのか
(学習指導要領の内容項目を手がかりに猪岡が想定した)

- 郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもっている姿
- 郷土の存在に気付き、そのよさに気付く姿

- 自分のすむ町の身近な自然や文化などに直接ふれる機会を増やしたいと思い、そこに携わる人々との触れ合いを深めたいと身構えている姿
- 国や郷土への愛着を深め、親しみをもって生活できるようにする行動の準備が整いはじまった姿

4

タブレットでグループの授業中の対話記録から分析

下記はグループ対話記録の分類記号

(学年行事)

大森町探検(生活科)・・・公園A・商店街通りA・赤煉瓦館A・山下太郎記念館B・野菜蔵G・郵便局G・交番G①全員でAとBの2回学校の近くを散策し、3カ所のグループに分かれて見学

休み時間

虫取り遊びが大流行
生活科の「生き物となかよし」から始まった遊び

他教科

国語科(話し合いのベース)
「あったらいいなこんなもの」で質問の仕方とその答え方を学ぶ

家庭由来

(記録分析の方法)

4人グループにタブレット一台
リーダーが録音操作
話し手は、タブレットを見ながら話す
聞き手は、話し手に質問や感想を言う
順番に4人が話す。
タブレットごとに文字起こしし、対話記録の分類記号に当てはめて分析

5

(タブレットの子どもの姿から A班分析)

- Y僕が町で好きなのはサマーフェスタです
- Fなんで？
- Y花火ショーがあるからです
- そうなんです
- Fあのいいよさあるは・・・
- F虫とか好き？
- F大森の人でもいいよ、山下太郎とか、野菜蔵とか
- R花火とかサマーフェスタが好きです
- Fなんで？
- Rいろんな野菜があるからです
- Fいいですね
- Mわたしが好きなのは花がいっぱいあるところですよ
- Fなんで？
- N・・・
- Fどこの花 じゅか F何の花ですか F一番好きな花は何ですか M僕です



家庭での体験



休み時間の遊び



町探検での体験



6

道徳科授業での 一人ひとりの学びの 深まりと変容を見取る

杉本 遼（宝仙学園小学校）

1

問題意識 ～子どもを見取れるようになりたい！～

見る ・ 子どもを見ること。

見取る ・ 子どもを見て、知ろうとすること。
子どもの言動を通して、内面をまるごと捉えようとする

評価 ・ 目標との関係において実践的活動を検討し、次の教育実践を調整する。

2

子どもの学び・成長を
見取りたい！

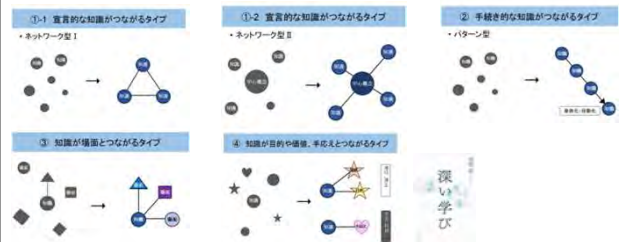
・ 道徳の授業での深い学び
とはどんな学びか。
・ 子どものどんな姿を見取るか。
…を明らかにする

子どもの姿を継続的に
見取り、解釈し、理解する。

3

深い学び（田村学）

「知識・技能が相互に関連付けられ、構造化されたり身体化されたりして高度化し、適正な態度や汎用的な能力、概念的な知識となって、自由自在に使いこなせるように“駆動”する状態」に向かっていくこと



4

道徳科での 深い学びのイメージ

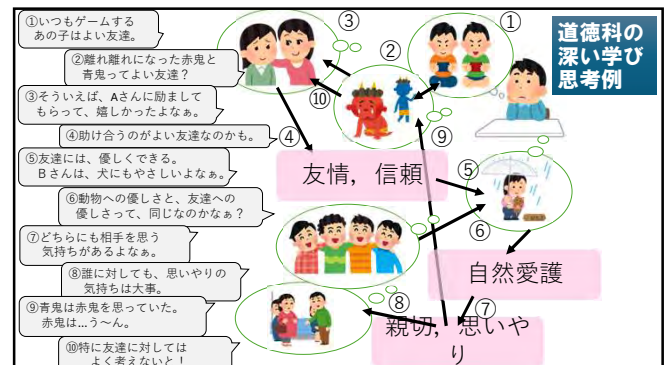
価値観

自己の生き方

道徳性

自己の生き方と道徳的価値とがつながることが“駆動”する価値観や道徳性となると捉える。学びをつなげ、ネットワーク化する姿を「深い学び」として見取る。

5



6

道徳科における深い学び

① 価値を再構成し、認識を深める

② 諸価値を関連づける（価値と価値との共通点・相違点）

③ 価値認識と他の特殊な場面や自分の経験とをつなぐ

④ 価値認識と自己の生き方とをつなぐ

学びをつなげる姿（ネットワーク化）を深い学びとして見取る

7

問題意識

個々の子どもを深くとらえ、他の子どもたちがその子の何をどうしてやることで、その子なりに意味ある学習になるのかを明確にし、個の追求の筋道にそって個性的に変化発展させることが子どもを生かす授業であると捉えている。

『個の育つ学校』 上田薫・静岡市安東小学校 明治図書

- ① 上田薫、築地久子などが安東小で実現しようとした個を生かす授業を道徳科で実現する。
- ② 個の学び・個の成長を見取る。

個々の子どもを生かして、学びを大事にする！

- ① 一人ひとりの道徳性に係る実態を把握
- ② 目標に一人の子を位置付ける

8

個を生かす授業とは？

個々の子どもを深くとらえ、他の子どもたちがその子の何をどうしてやることで、その子なりに意味ある学習になるのかを明確にし、個の追求の筋道にそって個性的に変化発展させることが子どもを生かす授業であると捉えている。

『個の育つ学校』 上田薫・静岡市安東小学校 明治図書

カルテ 個々の子どもを深くとらえ

目標を子どもに位置付ける

評価

その子を丸ごととらえた中で解釈を背景に、本時でのその子への具体的な期待や願いをもって、その子にそって伸ばす生き方に変化をもたらす授業をし、目標を位置付けたその子にとって本時はどのような意味があったかを評価する。

9

カルテ

子どもの具体的な表れやそれに教師の解釈を加えたもの。カルテを積み重ね、結びつけることにより、子どもの新たな面を発見することができる。また、カルテをとり続けることにより教師自身の子どもを見る目がかわってくる。



ふせんにメモ

日々の生活・授業での現れ
☐ 内容項目
☐ 教科・領域
☐ 内容

フォームに記録

10

目標を子どもに位置付ける

抽出児、対象児のこと

授業の目標を抽象的公式的な表現で書くと、十分に用をなさない。

目標に子どもを位置づけることによって、漠然とクラス全体を頭に描いて考えていた目標や授業の展開、手立てが具体的になる。

一人の子の個を生かし、学びを大事にする！

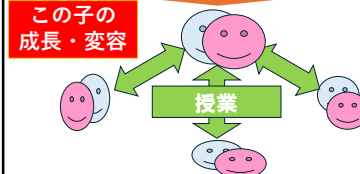
- ① この子にはこんな力をつけてほしい。
- ② この子はこの場面でどう考えるだろうか。
- ③ この子にはこんなアプローチで追ろう

11

一人ひとりの子どもの学びに注目する

子どもの見取り（普段のやりとり→カルテ）
 目標の位置付け（補充・深化・統合）

えこひいきでも他の子を見捨てるでもない！



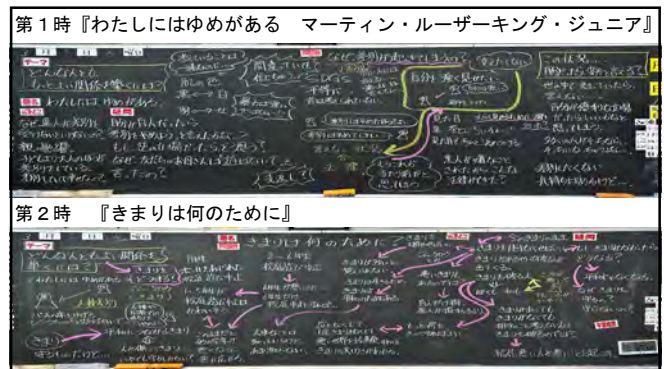
位置付けた子を変えるには、同じ立場の者、対立する立場の者を変えなければ変わらない。位置付けた子を強くするということは、他の子を強くすることである。全員を扱えないと覚悟を決めると、全員が見えてくる。

『築地久子の授業と学級づくり』
 落合幸子・築地久子著（明治図書）

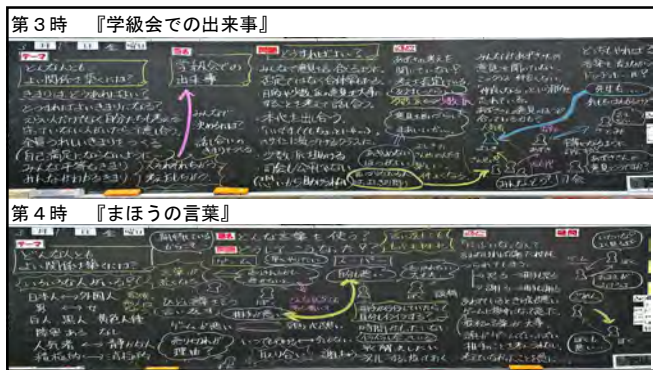
12

単元の構想		
第1時 ①主題名 なぜ、差別は起きてしまうの？ (公正、公平、社会正義) ②教材名 『わたしにはゆめがある—マーティン・ルーザー・キング・ジュニア—』 (廣済堂あかつき『小学生の道徳4』) ③ねらい 自分と異なる考えの人やマイノリティを排除せず、自分の考えと違う人も同じ人間として平等に接する態度を養う。	・ 対等な立場で人を尊重する。 ・ すべての人は、少数意見を尊重する。平等な尊敬をもつ。 ・ 合意は、数の論理より理由が大切。	第3時 ①主題名 話し合うって、どうすればよいの？ (相互理解、寛容) ②教材名 『学級会での出来事』 (光村図書『道徳4きみがいちばんひかるとき』) ③ねらい 多様な見方や考え方があることを知り、それと同時に、自分は完全ではないという謙虚な考えをもって、お互いを対等な人間であると認め合うとする態度を養う。
第2時 ①主題名 きまりは何のためにあるの？ (規則の尊重) ②教材名 『きまりは何のために』 (文部科学省『私たちの道徳』小学校五・六年) ③ねらい 多様な考え方を認め合うには、すべての人の自由(権利)を両立させる規則と法が必要であることを理解する。	多様性⇒「全ての人」・「どんな人とも」 ○単元のテーマ どんな人ともよい関係を築くには？ 単元のねらい 自分の考えと異なる見方を知り、対立し合うのではなく多様な個性を活かし合う調和した社会を形成する態度を養う。	第4時 ①主題名 どんな言葉を使う？ (礼儀) ②教材名 『まほうの言葉』 (廣済堂あかつき『小学生の道徳4』) ③ねらい 考え方の異なる人々や親しくない人にも礼儀正しく振る舞うことで、自分たちと異なる人々とも交流し合うとする態度を養う。
	○すべての人の自由、権利が両立する ・作った規則と法は責任をもって守る。	○他者を敵ではなく、一人の人として認めるには礼儀が必要。 (キムリッカ)

13



14



15

児童Aをどんな子どもだと理解していたか...

- 4/16 どの教科でも理解が早く、考えが豊か。しかし、自分の考えを発言・記述することは苦手。意外とめんどくさがり。考えに自信もないように感じる。
- 5/30 体育のリレーの学習で、チームの仲間に練習の指示を出し、バトンパスの仕方を教える。サッカーをクラブチームでしており、運動が得意だが、指示や教え方に圧はなく、関わり方がとても上手で優しい。
- 6/23 少しずつ書くことによって自分の考えを表出するようになってきた。
- 7/5 ペアでの学習でとなりの子どもに考えを話すことを促す姿を見る。自分の考えを話すだけでなく、話し合うことに対し積極性が出てきた。
- 9/27 運動会の表現の練習に、思っていた以上にやる気を見せる。休み時間にも取り組んでいる姿が見せる。
- 11/6 体育の時間、珍しく友達とトラブル。ゲームの中でルール、勝敗でもめる。話を聞き、教師の考えを伝えようと、すぐに納得し、反省していた。

児童Aへの願い・ねらい
自分のよさ(できること・優しさなど)を自覚し、自信をもって自分を出していくようになってほしい。

16

児童A どんな人ともよい関係を築くには？	
はじめ	気軽に声をかけたり遊びをさせてもらったり家族などでわからない問題を教えてあげたりする
第1時	もし男女差別が自分たちの町や学区にあったとしたら逆らえない。殺される可能性があるから自分は言えないと思う。だから、アメリカで人種差別があってマーティン・ルーザー・キング・ジュニアは死んでしまうかもしれないのに恐れず法律に立ち向かい、人種差別をなくしたのはすごい。簡単ではないからメンタルがすごい。真似したいと思いました。
第2時	僕は今回学んだのは結局悪い人が悪いことが起きているのにはにかきつけあけて起きている「親友が殺されて許せない」とか思う人がいてぶつけてしまうから悪いことが起きてしまえば抑えていっても人間というは我慢出来ない時があるから仕方ないけど自分もその気持ちわかるけどそれを抑えられる人は絶対に心が広く穏やかで優しい人だと思う。僕もできるかわからないけど心が広く穏やかで優しい人になりたいと思った。
第3時	人気者のよきさが意見を言うときみんながいやでもよききに賛成しないといけない。賛成する人もちゃんと意見を言って自分を出さないといけない。口出しをするのは自分勝手だから可哀なときには、ちゃんと口出しをしないといけないと思った。
第4時	状況によって態度や言葉がだんだん変わる。みんな考えることが違う。状況や自分の欲望、考えることによって違う。だから気持ちをコントロールできる人になりたいと思った。
学習後	ぼくはこの学習で成長したこと考えは優しくなったりするのは自分たちがちゃんと守れるか自分が我慢に耐えることはとても大切だから気持ちをコントロールできる人になりたいと思いがける気持ちが自分から行動してみんなに好かれるようになるのかもしれないと良い関係を築けるとはじめての考えに思いがけずよさばりそのとおりでありそれをできる人は心が広く穏やかで優しい人なんだと思う。完全に心が広く穏やかで優しい人にはなれないけれどそれになれるように心がける気持ちが自分にはあるとわかったことが成長したことだと思う。

17

児童Aのインタビュー調査	
自分の町や国に人種差別があった場合は、自分は自分自身だとなんもできない。ずっと嫌な気持ちのまま。マーチンは、逆らったら捕まったり殺されたりするかもしれないのに、恐怖に立ち向かった。正しいって思ったことには、怖がらない人になりたい。行動できるかどうかは別だけど、そういう気持ちはなくしちゃダメだと思った。誰ともよい関係を築くには、誰からか声かけられるのを待つのではなく、自分からまず声をかけないといけないと思った。新学期になって中学生とかみんな違うところに行った時、まず自分から行動して、みんなと仲良くなることが大事。マーチンのように大きなことはできないけれど、今の自分ができる最大のことをしたい。5時間やっていると、「どんな人ともよい関係を築くには？」というのをずっと考えた。色々なお話から考えたから考えがいっぱいになった。最初の「わたしにはゆめがある」のお話がずっと頭の中に残っていて、つなげながら考えることができた。5時間授業することで、前回授業に繋げて考えてもっと深く考えることができた。	自分につなげる ①勇気 ②善悪の判断 自己の生き方につなげる ○多様性

18

記述からの児童Aの学びの見取り

- ・「もし、自分だったら...」、「もし、足立区だったら...」と、常に特殊場面や自分につながながら考えていることがわかる。
- ・「多様性」を公正、公平、社会正義や相互理解の視点を関連付けて考えている。
- ・多様性を認める社会の実現の難しさを考え、「自分にできることをする」や「自分をコントロールする」など、善悪の判断、勇気、自立の価値の重要性を考えている。
- ・自分を見つめ、自己の生き方への考えを深めていると捉えられる。

19

児童Cをどんな子どもだと理解していたか...

- 4/10 隣の学校から転校。転校初日からハイテンション。持ち上がりのクラスにいい影響を与えてくれそう。
- 4/25 とても人懐っこい。毎日のように自分のことを話してくる。転校したのは、父親との離婚によるもので、祖母の家の近くに引っ越したと話した。
- 5/23 算数の時間に難しい問題に苦戦。できなくて凹む。
- 7/18 保護者からの電話連絡。Bさんから冷たい言葉を投げかけられ、悩んでいるとのこと。表向きは明るいが、様々に考えている子どもだと気づく。
- 11/3 保護者から連絡。ハロウィンの衣装について、Aさんとトラブルが起こる。よく話を聞くと、周りの児童の噂話によって、Aさんとのすれ違いが起きて、認められなくなった経験をした。

児童Cへの願い・ねらい
そのまの自分に自信をもち、明るいままでいてほしい。人間関係に深く悩まずに、前向きに問題を解消していってほしい。

20

児童C どんなん人ともよい関係を築くには？		深い価値認識
はじめ	その人はどんな人なのかをよく観察すると何が好きなのかなどがわかるし、どんなのが嫌なのかなどがわかる！そうすれば、相手と関わらないから、もっと良い関係がうまれる	自分につなげる ①公正、公平、社会正義
第1時	差別は、人を深く傷つけてしまい、とても恐ろしい。差別をするようにする法律があるなんて恐ろしい。世界のすべての差別が全部消えたとは言えない。この前テレビで見たのですが、黒人が差別されたそう。肌の色が違うだけで差別されるのはとてもおかしい。同じ人間なのに！！でも、私が白人だったら、「こんな法律、変だよ！やめなよ！」とは言えない。法律で決まっていって、ルールを破ってはいけない状況だと思うから。黒人も差別されていて、言いたいことが言えない。	特殊な場面（前時の教材）につなげる 諸価値の関連づけ ②規則の尊重 ⇒公正、公平、社会正義
第2時	今の法律のままでいい。法律が少なすぎると、犯罪が起きやすくなり、法律が多すぎても、犯罪を起こそうとしている人が、怒って、もっと平和ではなくなる。ルールはしっかりと守りたい。でも、悪い法律などは、守りたくない。人種差別はあってはいけない。	深い価値認識 ③相互理解、寛容
第3時	言いにくい環境を作ってしまうのは、周りが、司会、などが関係していると思いました。司会の人が、「あずさんの意見はどうですか？」と言え、言いやすい環境を作れた。せっかく意見を言っているから、まずは、意見を聞いてから、意見を発表する。私があずさんだったら、ワガママはいいないと思ひ、とても嫌な気持ちになると思った。	深い価値認識 自分につなげる ④相互理解、寛容⇒礼儀
第4時	昔の嫌な思い出を思い出しました。使いを間違えると、相手を傷つけてしまう、「携帯」「メール」と一緒に、「言い方」も言い方一つで心を傷つけてしまう。また、汚い言葉を使ってしまうと、相手を傷つけてしまう。逆に、相手が喜ぶような言葉を使うと、相手もハッピーになる。言葉や、言い方などを気をつけなければならぬ。	深い価値認識 自分につなげる 諸価値の関連づけ ○多様性
学習後	差別をしないこと、人を見ただ目で判断しないこと、言い方に気をつけること、言葉に気をつけることの4つを大切にすること。人を見ただ目で判断せず、中身を知ろうとすれば、仲良しできる。言葉に気をつけたり、同じ言葉でも言い方に気をつけたりすれば、傷つけることはない。よい関係に築くには、気をつけなければならぬものがたくさんある。	

21

児童Cのインタビュー調査

- 差別とか見た目で判断せず、中身を知って関係を作れば良いと思った。なぜなら、見かけだけで判断すると、相手のことをよく知れなくて勝手に決めつけてしまうから。相手の中身を知って、良い関係を築けるようになりたい。先生が「ピンクの人がいたらどうする?」と、質問された時、「こわ!!」って友達に言った。白人は黒人のことを「こわ!!」って思ってしまったのかも。ちょっとしたことで差別が起きてしまうと思った。自分にも差別をしてしまう可能性があるって気づいた。
- 誰とでもどんな人ともよい関係を築くには、言葉や言い方など気をつける。言いたいことが同じでも、言い方1つで、言い方が違えば相手を傷つけてしまう。汚い言葉を使うと、相手をすごく傷つけてしまう。逆に嬉しい言葉を使うと相手もハッピーになる。
- この授業では、感想をたくさん書けた。ニュースとかを見て、差別って良くないな、なんで起きるんだろうと、思っていた。授業で、改めて考えて、考えがより深まって、色々な考えが出てきた。

諸価値の関連づけ
○多様性 ⇒公正、公平、社会正義 相互理解、寛容
自分につなげる
深い価値認識
○公正、公平
諸価値の関連づけ
○多様性 ⇒礼儀 相互理解、寛容
自分につなげる
深い価値認識
○公正、公平

22

記述からの児童Cの学びの見取り

- ・異性、噂話によって相手を認められなくなった経験を思い出す。
- ・これまでの経験から、公正、公平について、強い問題意識をもっている。第1時、第2時を通して問題意識をさらに高めた。
- ・第3時、第4時では、登場人物に自分を投影させて考えたり、価値の両面を考えたりして、相互理解や礼儀について深く価値を認識している。
- ・差別はどこでも、誰にでも起こる可能性があることを例を示しながら説明することができている。
- ・多様性を認め合う社会の実現には、差別をしないこと、人を見ただ目で判断しないこと、言い方に気をつけること、言葉に気をつけることの4つを挙げた。
- ・これらのことから、価値を関連させて認識し、自己の生き方への考えを深めていると捉えることができる。

23

成果	課題
・価値の道徳性に基づく授業づくり 一人ひとりの子どもの実態（特性・関心・課題）に即して、授業の目標を個に位置づけた授業を構想・実践できた。 ・「カルテ」を活用した継続的な見取り 日常のふるまいや授業での姿を継続して記録し、子ども理解を深めながら授業に活かすサイクルを確立した。 ・深い学びを見取る視点（ネットワーク化） 「深い学び」の視点を定め、子どもが価値同士の関係や、自分の経験・生き方と価値をつなげて捉える様子を見取ることを試みた。 ・記述や対話からの成長の分析 記述やインタビューから、自己の姿容・価値への気づき・実生活への応用など子どもの意識や成長を具体的に読み取ることができた。 ・他の児童の成長にも波及 ある子への関わりや位置づけが、周囲の子どもたちの思考や行動の姿容にも影響を与える授業となっていた。	・全員を同等に深く見取る困難さ 一人ひとりを丁寧に見取り授業に位置付けるには時間と労力がかかり、全児童に対して同様のアプローチを取ることの難しさがある。 ・カルテの蓄積と授業への活用の精度 カルテの記述の蓄積はできたが、適切に授業目標や展開に十分に生かしているかは、今後もさらなる検討していく必要がある。 ・個別化と学級全体とのバランス 一人の子の価値の深まりを中心に据えることで、他の子の学びとの接続や一体感の形成に課題が生じる可能性も。 ・道徳的価値の「量的把握」の難しさ 価値のつながりや自己とのつながりなど「深い学び」は見取れても、道徳性や価値観を定量的に測る手法は依然として難しい。 ・教師の解釈の主観性 記述や発言の意味づけには教師の主観が入るため、他者との見取りの共有や客観性の確保が課題となる。

24

道徳科の評価におけるICTの効果的な活用

やとみしりつ じゅうしやまとうぶ しょうがっこう
愛知県弥富市立十四山東部小学校

鈴木 賢一

1 問題の所在

●文部科学省「特別の教科 道徳の指導におけるICTの活用について」（2020年11月）

年間や学期という一定の期間を経て評価するためにICTを活用することが、**子供たちが自己を深く見つめること**や**教師の負担軽減**にもつながる。

●中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（2021年3月）

ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を蓄積・分析・利活用することや、**教師の負担を軽減**することが重要である。

●先行研究・実践等

- ・学習履歴「M-ログ」の活用（木村，2022）⇒ 中学校での実践，1・2学期の比較に留まる
- ・学習履歴「M-ログplus」の活用（中西，2023）⇒ 小単元の振り返りに活用，教師の負担軽減には触れられていない
- ・デジタルポートフォリオの実践（山田，「道徳授業の本質を大切にICT活用」2022）
- ・ミライシード，ロイロノート，Boxを活用した実践（中野，「GIGAスクールに対応した小学校道徳ICT活用BOOK」2021）

小学校で，ICTを活用して振り返りを蓄積し，評価を行い，その効果を検証することが必要

1 問題の所在

研究の目的

児童が各学期末（年度末）に行った振り返りのデータや，ICTを活用した評価の効果を測る調査を通して分析し，

① 児童にとって，道徳授業の振り返りにICTを活用することが，**自己を深く見つめる**ために効果的か。（どのように活用すると効果的か）

② 教師にとって，道徳授業の評価のためにICTを活用することが効果的か。（**負担軽減**につながるか）

を明らかにする。

2 方法

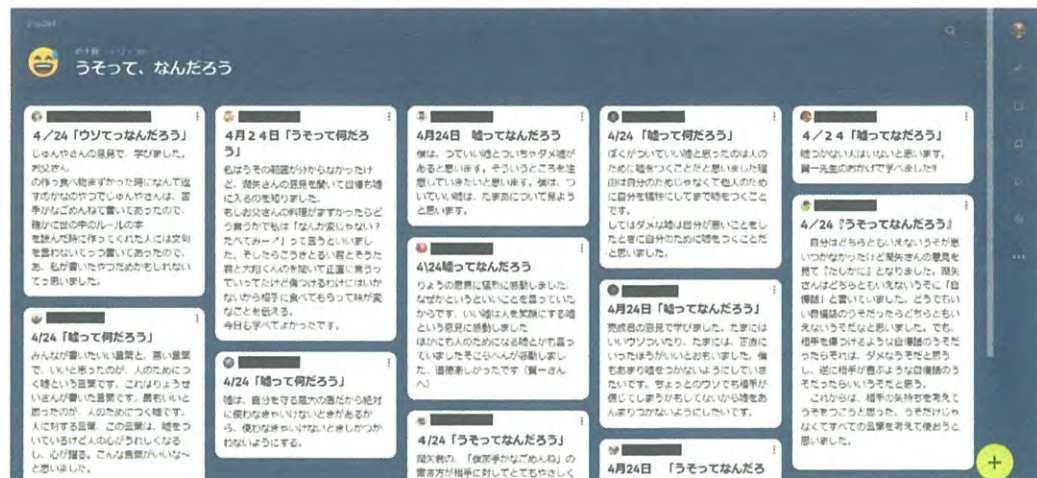
研究期間：2024年4月～2025年3月 対象：小学校6年生（13名）

回	月／日	教材名	内容項目	授業者
1	4/19	夢を実現するためには	A 個性の伸長	推進教師
2	4/24	うそってなんだろう	A 正直，誠実	推進教師
3	5/13	父の言葉	B 思いやり，親切	担任
4	5/15	友達だからこそ	B 友情，信頼	担任
5	5/22	ドナーカード①	D 生命の尊さ	推進教師
6	5/27	ドナーカード②	D 生命の尊さ	推進教師
7	6/10	愛梨ちゃんからの命のメッセージ	D よりよく生きる喜び	
8	6/10	佐藤美香さんの講演会	D よりよく生きる喜び	推進教師
9	6/12	おくれたきた客	C 規則の尊重	担任
10	6/19	ロレンゾの友達	B 友情，信頼	推進教師
11	6/28	手品師	A 正直，誠実	担任
12	7/3	ブランコ乗りとピエロ	B 相互理解，寛容	推進教師
13	7/16	1学期の振り返り		担任

2 方法

⑤

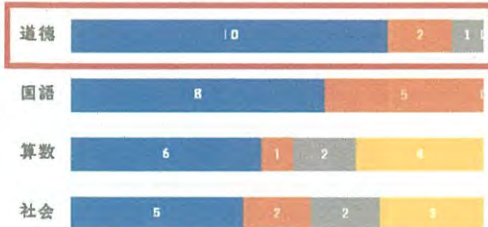
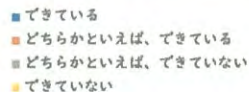
オンライン掲示板「Padlet」



3 結果・考察

7

ICT機器を使って友達と話し合うことによって、よりよい考えを見つけたり、自分の考えを広げたり深めたりすることができていますか。



●ロイロノートを使うと、みんなで学び合いがしやすいから。相手の様々な意見に対して「こんな意見もあるのだなあ」と知ることができる。

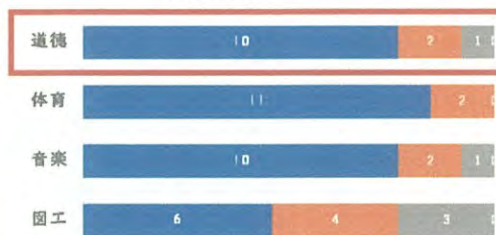
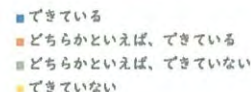
● いろんなアプリを使った方が自分としてはいいと思います。自分の考えがまとめやすいし、相手にも伝えやすいと思うからです。

よりよい考えを見つけたり、自分の考えを広げたり深めたりするためには、ICTを使用した上で、話し合いの視点（例：比較・分類・関連付けなど）をもたせることが必要。

3 結果・考察

⑥

ICT機器を使うことによって自分の学びや成長を実感したり、新しい目標やこれからの課題を見つけたりすることができていますか。



●（体育では）タブレットで振り返りをすると、みんなの成長が見れるし、教えてもらった人を書いてもらえると嬉しい。

●（体育では）動画があると直した方がいいところを指摘しやすいし、相手にも伝わりやすい。

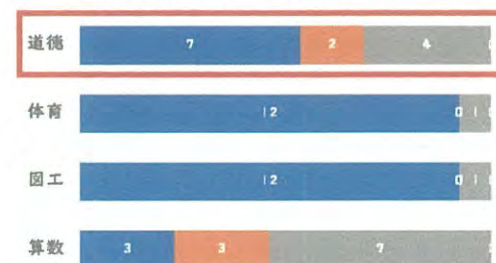
● Padletは自分の振り返りだけでなく、友達
の振り返りも見られるから、友
達の振り返りを参考にして、自
分の考えをまとめることができる。

学びや成長を実感したり、新しい目標やこれからの課題を見つけたりするためには、**ログ (Padlet) を基にした子どもたち同士の関わり合い**が必要。

3 結果・考察

⑧

授業で振り返りを行う際、最も自分に適していると思うものはどれですか。



●紙に書くときは消したりするのが面倒だけど、Padletはすぐに消せるし、書き足したいときもすぐにできて便利だから。

● プリントとかに書くと、先生に出してしまったら自分が見たいときに見れないけど、ICTなら自分が見たいときにすぐに見れるから。

● 体育は動画があると、自分の成長がよくわかるし、図工はみんなが作ったものや書いた絵が一覧で見れるから。道徳や算数は紙に書いた方がしっかり考えられるときもあると思うから。

教科や内容に応じて、適しているもの
を選ぶようにすることが必要。

5年生3月と6年生7月の比較

児童	速読数 5年生3月	速読数 6年生7月	増減
A	437字	786字	+349字
B	322字	679字	+357字
C	242字	625字	+383字
D	698字	485字	-213字
E	167字	481字	+314字
F	200字	467字	+267字
G	200字	358字	+158字
H	235字	324字	+89字
I	209字	296字	+87字
J	165字	287字	+122字
K	286字	244字	-42字
L	693字	241字	-452字
M	167字	168字	+1字
平均	309.3字	418.5字	+109.2字

児童	発表時間 5年生3月	発表時間 6年生7月	増減
A	1分41秒	3分00秒	+1分19秒
B	1分07秒	2分18秒	+1分11秒
C	1分05秒	52秒	-13秒
D	2分51秒	2分01秒	-50秒
E	0秒	42秒	+42秒
F	1分02秒	1分33秒	+31秒
G	1分16秒	1分48秒	+32秒
H	1分23秒	56秒	-27秒
I	1分35秒	57秒	-38秒
J	46秒	42秒	-4秒
K	1分46秒	1分25秒	-21秒
L	2分53秒	47秒	-2分06秒
M	34秒	1分13秒	+39秒
平均	1分21秒	1分24秒	+3秒

【小括】ICTを活用したより効果的な振り返りに向けた提案

● 振り返りを入力した後に、ペアまたはグループなどで互いの内容を読み合ったり、教師も加わって検討したりする機会やコメント機能を使って相互評価する仕組みなどをつくり、**振り返りを基にした関わり合い**がもてるようにする。

● 子どもたちに応じてICT以外の選択肢を用意したり、授業の冒頭や、学級の時間等で、特に学びや成長が表れている振り返りを教師がピックアップして学級全体に知らせるなど、**振り返りの振り返り**を行う。

研究の成果

① 児童にとって、道徳授業の振り返りにICTを活用することが、自己を深く見つめるために効果的か。（どのように活用すると効果的か）

⇒ 3つの調査,2名の振り返りデータ ⇒ ログを基にした関わり合い・振り返りの振り返り

② 教師にとって、道徳授業の評価のためにICTを活用することが効果的か。（負担軽減につながるか）

⇒ 継続調査

今後の課題

- 調査に関するインタビューを行うなどし、数値やデータの背景を知る。
- 同様の研究方法による事例を蓄積する。

道徳科における評価

「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4

児童(生徒)の**学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。**
ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』
(文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』)

- ①児童生徒の学習状況
- ②道徳性にかかる成長の様子 **継続的に把握する**



・指導に生かす

7

教員からのフィードバックの意義

これからの学校においては、子供が「個別最適な学び」を進められるよう、教師が専門職としての知見を活用し、(中略)
これまで以上に子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、
個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、
子供が自らの学習状況を把握し、
主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。

「協働的な学び」においては、**集団の中で個が埋没してしまうことがないよう、**
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげ、(中略)
異なる考え方が組み合わせ、**より良い学びを生み出していくようにすることが大切である。**

中央教育審議会(2021)『「令和の日本型学校教育」の構築を目指す～
すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』

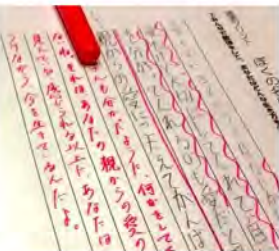


・児童生徒の個々の学びを支える

8

児童生徒の学習のまとめに対する

教員からのフィードバックの意義



○日本人が「幸せ」だと思えない事にこの現象で気がつきました。愛憎が無い事です。
今日勉強した「ぼくの名前を呼んで」から分かった事は、お父さんは、耳を聞かさないけれど、愛憎があったのだと、お母さんは、息子に聞きかたで聞いて、くちびるに耳を近づけたと書いてありました。愛憎がなくてこそいいのだと思います。日本人にも、愛憎があると思います。

○太郎君は、かわいそうだけど、幸せだと思いました。なぜなら、太郎君は、お父さんとお母さんにすぐ愛されているからです。
だから、私は、私の友達からもそうだけど、言葉や物ではなく、気持ちが大変だと思った。
そして、太郎くんもそうだけど、親の愛に気づいていない。それが、世の中の幸せ「40%」につながっていると思う。

○家族のコマースも見たけど、家族って、本当にいろいろな人だなと思った。
家族で遊んだ時、「強いながらも」でとてもいいなと思った。

(教員にとって)
・児童生徒の学びの支援

(児童生徒にとって)
・探究的に学習する機会
・多様な他者と協働する機会

9

本研究の成果

- ・昭和33年の学習指導要領や現行のものに加え、
The OECD Learning Compassなどを手がかりに、
道徳科における学びや評価について検討することで、
道徳科において、児童生徒の学習のまとめに対して
教員がフィードバックをすることの意義が改めて明確になった。

本研究の課題

- ・指導に生かされ、児童生徒の成長につながるものが
道徳科の評価であり、教員からのフィードバックであるが、
「どのようなフィードバックが児童生徒の成長につながるのか」
ということについては、言及することができなかった。

10

「振り返り」の記録のデータベース化による 評価システム開発の構想

中野啓明(新潟青陵大学)

教育におけるデータの利活用を巡る状況

令和3(2021)年1月26日 中央教育審議会答申

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

① 個別最適な学び：個に応じた指導（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一段重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コミュニケーションや情報ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを通じて活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されなく、子どもたちに必要な力を育む

指導の個別化	学習の個性化
◆ 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、 ・支援が必要な子どもにより重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現 ・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う	◆ 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまでに以上に子どもの成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

それぞれの学びを一体的に充実し
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

② 協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「独立した学び」に限らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す
- ◆ 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実演・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- ◆ 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

「個別最適な学び」：学習者の視点

- = 個に応じた指導：教師の視点
- = 指導の個別化 + 学習の個性化

⇒ ドリル、学習履歴（スタディ・ログ）、
データ駆動型教育への転換

一体的に充実

「協働的な学び」

⇒ 従来のグループワーク・話し合いを通じた学び
ICTの活用：共同作成・編集を行う活動

「個別最適な学び」の特徴は、①学習者の特性や進度、到達度などに応じ、指導方法・教材や学習時間などの柔軟な提供や設定、②自らの学習を把握し、学習の進め方を工夫し、調整しながら粘り強く取り組む、③興味・関心に応じ、課題の設定、子ども自身による情報の収集、整理、分析、まとめ、表現など、主体的に学習を最適にする、といった点にある。[1]

[1] 天竺茂、2021年、「中教審答申で読む『個別最適な学び』と『協働的な学び』」『新教育ライブラリPremier II Vol.2 令和の「個別最適な学び・協働的な学び」のパラダイムシフト』ぎょうせい。

「個別最適な学び」を促進するためには、学習者の特性や進度、到達度を把握し、学習者自身が自らの学習状況を把握し、学習を調整することに向けた学習履歴（スタディ・ログ）などのデータを蓄積が必須となる。

学習履歴(スタディ・ログ)の蓄積は、国語科や算数・数学科、英語科等の到達目標が明示された教科において、問題と正答からなるデータベースの整備や、パッケージ化された学習コンテンツを用意するためにも、今後一層加速していくことと推測することができる。

7

一方、道徳科においては、他の教科において強調されている「個別最適な学び」を促進するための学習履歴(スタディ・ログ)などのデータを蓄積することの重要性とその方策に言及しているものは見出すことができない。

8

道徳科においてデータの利活用が進まない理由

- ①道徳科の目標は、他教科のような到達目標ではなく方向目標であること、
- ②道徳科の場合は唯一の正答は存在せず、学習者一人ひとりが「納得解」を追究していくことに特徴があること、等

道徳科の授業においては、授業の終末時における「振り返り」において、一人ひとりの学習者の学びを重視してきたといえる。

こうした「振り返り」の記録は、学級内にとどまっている場合が多い。つまり、道徳科のこの教材で、どのような学びが生起していたのかを、学級の枠を超えた大規模なデータとして蓄積することは行われてこなかった。

「振り返り」の記録を活用することが、道徳科におけるデータの利活用につながるようになるのではないか。

9

道徳科における「評価」を巡る状況

学習指導要領上の記述

「児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」

ここでいう「評価」は、「評定」の意味

10

本時の指導案上の課題

他教科の場合：ねらいは記載
評価の欄は必須、
評価規準がある

道徳科の場合：ねらいは記載
評価の欄？
評価規準？

11

- ・「数値による評価」を行わないにしても、「ねらい」に即した本時の授業を評価しなくてよいのか？
- ・ その授業の成否を判断する根拠は何か？
- ・ 本時を通じて、子どもは何を学んだのか？
- ・ 授業の中での「道徳性に係る成長の様子」をどのように見取るのか？

12

道徳科授業における「評価」の研究を進めるために必要なこと



「この教材」で「何を学んだのか」という記録（振り返りの記録）の蓄積



学級内にとどまらず、学校を超えた大規模なデータベースの構築が必要

13

従前の「振り返り」の記録の蓄積

Gフォーム等を使った、1回または複数回の記録の蓄積

- ・Gフォームの機能を使った分析
- ・スプレッドシートに書き出す 等

1回だけのアンケート的な使用、または学級内でのみの使用を前提

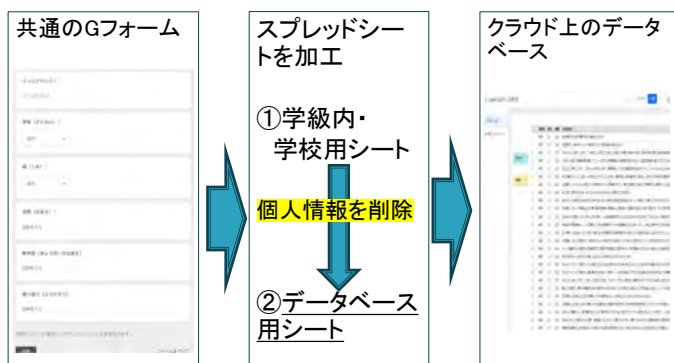


新たな「振り返り」の記録の蓄積の方法

学校内や学校を超えた大規模なデータベース

14

BIツールを活用した「振り返り」の記録のデータベース



※研究参加者に限定公開

BIツールを使うことのメリット

- ・ブラウザー上で検索が可能
- ・動的なデータに対応
- ・教材毎、管理番号（個人）毎等に抽出が可能

16

想定される活用方法

- ▶ 「この教材」で「何を学んでいるのか」という分類や類型化が可能となる。
- ▶ 子どもの学びのポートフォリオが作成可能となる。
- ▶ 具体的な事例をもとに、教師が子どもの振り返りを評価する（フィードバックする）際の視点を抽出することが可能となる。
- ▶ 教材に即した、「予想される子どもの反応（発言）」として活用することが可能となる。

17

研究の成果

- ① 評価部会での議論を通じて、道徳教育・道徳科における評価の論点が多岐にわたることが確認できた。
- ② 評価部会での発表をもとに、日本道徳教育学会第103回大会において自由研究発表を行うとともに、第104回大会では部会員とともにラウンドテーブルを企画・実施することができた。
※第103回大会発表要旨集、79～80ページ／第104回大会発表要旨集、20ページ 参照
- ③ 研究のアイディアとして、教師が子どもの振り返りを評価する（フィードバックする）際の視点を盛り込むことの重要性に関する示唆を得ることができた。

今後の課題

今後、この研究成果に基づきながら、具体的なシステムの構築に向けての予備的な検証作業を行う予定である。この予備的な検証作業を通じて、システムの構築に必要な問題点の抽出を行っていきたい。

18

道徳科 指導と評価の一体化

「どのように学ぶか」に注目して

札幌国際大学 安井政樹

1

問題意識

- これまでも
何を学ぶか（学習指導要領・内容項目）が
とても大事にされてきた。
- さらに どのように学ぶか についても重視

2

問題意識

「生きる力」を育むために
子供たちの学びはどう進化するのがいい？

主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）
「どのように学ぶか」だけでなく「何を学ぶか」も重視して授業を改善します。

カリキュラム・マネジメントを確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。

新学習指導要領リーフレット(mext.go.jp)
https://www.mext.go.jp/content/1413516_001_1_100002635.pdf

3

どんな学習が求められているのか？

道徳性を養うために行う道徳科における学習

自己を見つめる
（自分のこととして、自分との関わりで考える）

（広い視野から）
多面的・多角的
に考える

道徳的諸価値
の理解

自己の（人間としての）
生き方について
の考え

学習を通して

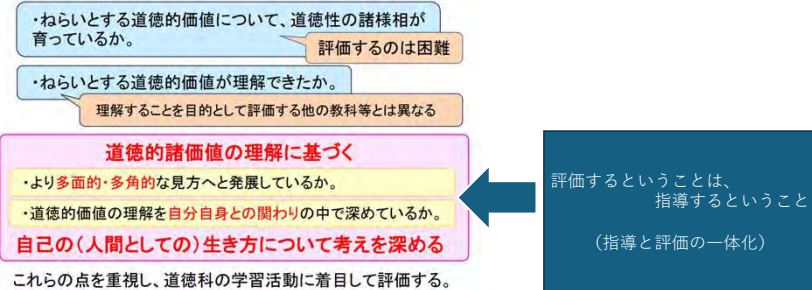
を基に

を深める

https://www.nits.go.jp/materials/intramural/files/147_001.pdf

4

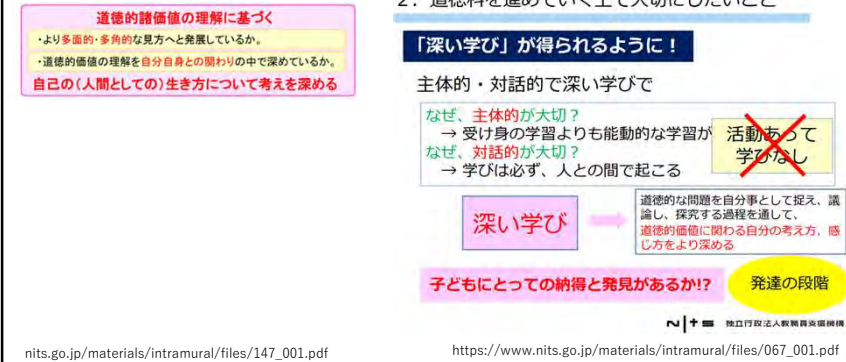
指導と評価の一体化



nits.go.jp/materials/intramural/files/147_001.pdf

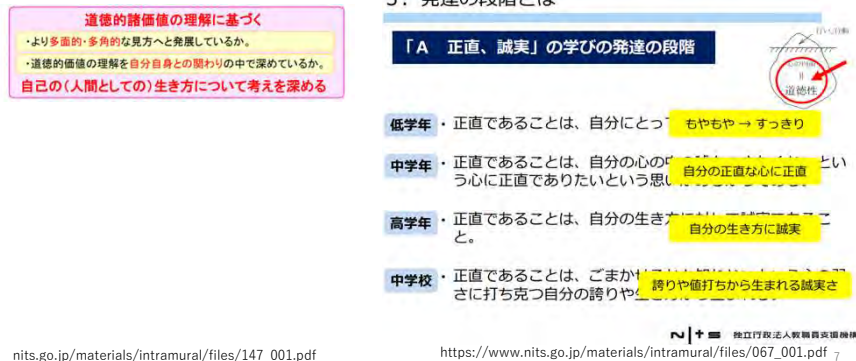
5

内容項目と同じように学び方にも系統？



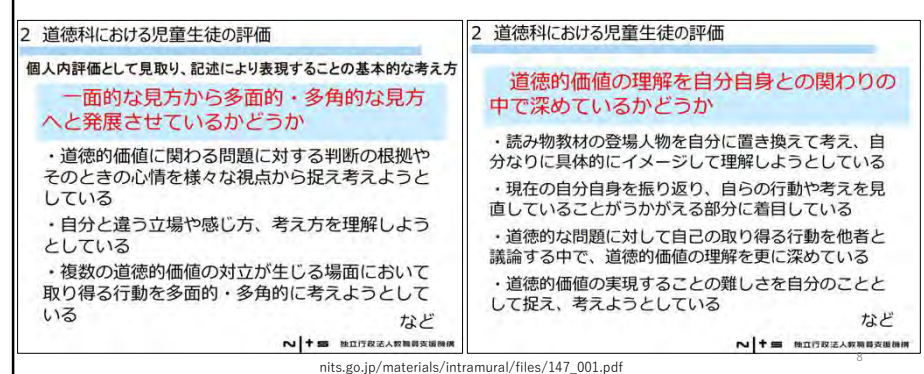
6

内容項目と同じように学び方にも系統？



7

内容項目と同じように学び方にも系統？



8

内容項目と同じように学び方にも系統？

道徳的諸価値の理解に基づく

- ・より多面的・多角的な見方へと発展しているか。
 - ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- 自己の(人間としての)生き方について考えを深める

	低学年	中学年	高学年	中学生
より多面的・多角的な見方	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
自分自身との関わり	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○

各学校の実態によるが…
もちろん個人差もあるが…

9

9

内容項目と同じように学び方にも系統？

道徳的諸価値の理解に基づく

- ・より多面的・多角的な見方へと発展しているか。
 - ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- 自己の(人間としての)生き方について考えを深める

	低学年	中学年	高学年	中学生
より多面的・多角的な見方	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
自分自身との関わり	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○

例) ○○さんの考え方もわかるけど、私はちょっと違ってて・・・

例) 自分にも同じような経験があって・・・主人公の気持ちがよくわかる。だから～～

10

10

問題意識

- ・どのように学ぶか という学び方についての
発達段階や系統性

11

11

各学校で 目指す学びの姿を学年ごとに考える

登場人物の思いや行動に
共感し、自分の経験を思
い出しながら考える。

自分の経験を振り返りな
がら、道徳的価値とこれ
からの自分の生き方をつ
なげて考える。

自分の心の弱さを率直に
見つめながら、よりよく
生きていくことについて
考える。

12

12

各学校で 目ざす学びの姿を学年ごとに考える

【興味関心】

現状として、
このような姿は、何年生くらいの姿だと先生たちは思っているのか

友達の話を聞きながら、
わかっていてもできない
人の心の弱さを見つめて
いました。

友達と議論する中でさまざまな経験や考えに触れ、**人の心の弱さやそれを乗り越える大切さ**について考えていました。

13

13

各学校で 目ざす学びの姿を学年ごとに考える

【興味関心 2】

各教科等では、どのような姿が想定されているのか。



話し合うことの指導事項から、各学年のつながりを確認し、どのような力を身に付けさせるのかを明確にしよう。

(小1・小2) オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

(小3・小4) オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通

点や相違点に着目して、考えをまとめること。

(小5・小6) オ 直いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

(中1) オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

3) オ 通行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを整理し合ったりする。

「小学校（中学校）学習指導要領解説 国語編」上

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m54/documents/kokugo.pdf>

[illegible]

https://www.edu-
c.pref.miyagi.jp/midori/doutoku/hattatu/img/%E3%80%8C%E7%99%BA%E9%81%94%E3%81%
AE%E6%AE%B5%E9%9A%8E%E4%B8%80%E8%A6%A7%E8%A1%A8%E3%80%BD.pdf

15

札幌国際大学 安井政樹

各学校で 目ざす学びの姿を学年ごとに考える

自分自身との
かわり

1 生活を振り返って	毎時間の学習で、これまでの自分の生活を振り返りながら、考えていました。
2 経験を思い出す	登場人物の思いや行動に共感し、自分の経験を思い出しながら考えていました。
3 ささまざまな体験と重ね	教材の登場人物の思いや行動について、自分の日常のさまざまな体験と重ねて考えていました。
4 これまでの自分と重ね	登場人物の心の動きをこれまでの自分と重ねながら、学習に向き合う姿が見られました。
5 自分に置き換え	主人公の気持ちや自分に置き換えてから、考えていました。
6 主人公の思い	役割演技や話し合い等を通して、主人公の思いについて積極的に発言していました。

一面的な見方から
多面的な見方へ

8 耳を傾け	主人公の迷いについて、自分ならどうするかと考えながら、友達の思いや考えにしっかりと耳を傾けていました。
9 新たな見方	自分の考えと似ているかどうかを意識しながら友達と話し、新たな見方に気づく姿が見られました。
10 いろいろな見方	主人公の心について友達と対話することを通して、いろいろな見方があることに気づいていました。
11 意見を比べ	友達の思いや考えにしっかりと耳を傾け、自分の意見と比べながら考えていました。
12 意見に共感	自分が感じたことを素直に発言したり友達の意見に共感したりしながら、道徳的価値について考えていました。

14

14

各学校で 目ざす学びの姿を学年ごとに考える

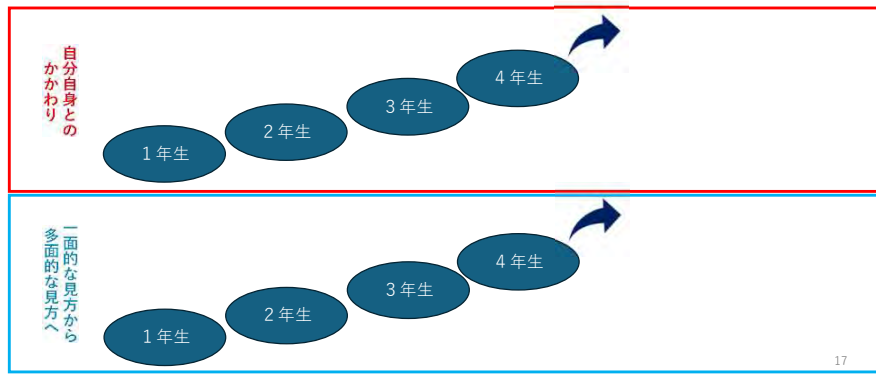
「発達段階一覧表」

[illegible]

筑城岡松公教育センター2013年度研究発表会（道徳教育研究グループ）

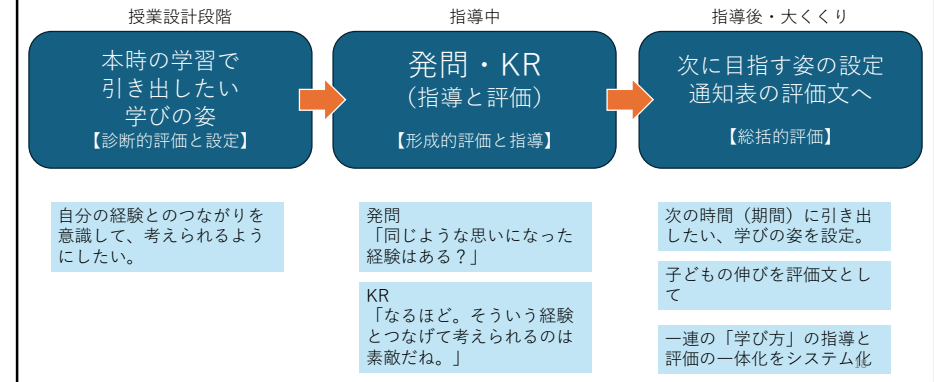
16

各学校で 目指す学びの姿を学年ごとに考える



17

目指す姿を設定 → だから意図的に指導



18

指導と評価支援システムの開発

特別の教科 道徳

指導と評価支援システム

安井政樹/著

授業改善 × 働き方改革 × 所見文例作成

本書付録のエクセルデータを使えば

- ① 年間の道徳を通して目指す姿が見通せる
- ② 毎時間の授業改善につながる
- ③ 所見文例の作成が短時間でかつ的確になる

現在：教科書会社A社の教師用資料として指導書に掲載

各学校で使用され始めている

利用者の声

「どうやって道徳を指導したらよいのか」が少し明確になり、どのように授業を組み立てていけばいいかわかるようになってきた。

利用者の声

ローテーション道徳をする際に、学年でどのような授業づくりをしていくのか共通理解がしやすくなった。

利用者の声

授業で評価していることが、期末に文章として表現できるので、まさに指導と評価の一体化を進めることができる。

19

今後に向けて

- ✓ システムの運用についての成果と課題を整理
- ✓ 子どもたちの学びの蓄積→どのように見える化するか

教育データの利活用
生成AI活用

20

20